

# 日本バプテスト連盟「結成 70 年」にあたっての声明

## 1. 「結成 70 年」とその時代

昨年 2017 年 4 月 3 日、私たち日本バプテスト連盟は、連盟結成 70 年の節目を迎えた。

私たち教会が立たされているこんにちという時代は、「戦後」の歩みの中で、人間をはじめとする全ての生命にとって、最も危機的な時代である。戦争はいよいよ身近に迫っており、特に東アジアにあっては核戦争の可能性が高まっている。政治や経済の実態は暴力的で、一部の富める人の利害のために力を振るい、格差社会をつくりだし、対立と競争の力を操って人々をばらばらにし、一人びとりの人権を蔑ろにしている。特に沖縄に生きる人々は、この時代の暴力と矛盾を新たな米軍基地の建設というかたちで押しつけられているが、そこには「戦後」日本があいまいにして来たいくつもの問題が深く繋がっている。

敗戦後、日本はサンフランシスコ講和条約で再び独立した。しかしそれは、天皇制を残し、米軍の基地の島として沖縄を切り捨て、日米安保条約を結び、冷戦構造の中で役割を果たすことで享受した一面的な「平和」だった。日本が植民地支配していた朝鮮半島では、「戦後」まもなく朝鮮戦争が起こり、休戦後も南北に分断され、「冷戦の現場」であり続けた。日本はこの朝鮮戦争やその後のベトナム戦争によって経済成長を果たし、加速度的に「発展」していったが、アジアの多くの国々では、冷戦構造の中、長らく民主化が阻まれ、経済的に奪われ続けて来た。また日本社会にあっては、在日韓国・朝鮮人社会が分断され、差別との二重苦に喘ぎ苦しんできた。沖縄の基地化と朝鮮半島の南北分断と天皇制と民族差別は、日本の偽りの「平和」の背後でつながっている。

そしていま、日本社会に生きる多くの人たちの雇用は常に不安定で、賃金を抑えられ、一緒に繋がって社会を変革する力を削がれ、貧しい者同士がいがみ合わねばならないような関係に追いやられている。現実味を帯びてきた核戦争に怯え、事故原発から放出された莫大な放射能に生きる場を脅かされている。こうした様々な不安や不満から、「障がい」をもった人を殺傷する優生思想や、外国人に対するヘイトスピーチが横行し、また議会でも官庁でも会社でも学校でも宗教界でもハラスメント事件が次々と表面化している。

国家の力の増強に反して、一人の人間の尊厳と人権が相対的に小さくなり、多くの人たちが「生きづらさ」を抱えて生きている。いま私たち教会・伝道所が出会う一人びとりは、そのような時代と世界の中で痛み、また喘いでいる。

## 2. 70 年の歩みを省みて

このような「戦後」の流れの中で、私たちは日本バプテスト連盟を結成し、協力伝道をおこなってきた。けれども、省みるべき多くの点に気づかされる。

私たちは 1947 年の結成以来、アメリカ南部バプテスト連盟からの多大な祈りと支援を受けて、全国都道府県に「開拓伝道」を展開し、教会・伝道所数は大きく増加した。また、後には基金・資金によって同様の宣教政策を続けた。

しかし、私たちはそうした伝道資金に依拠・依存する体質に陥ってしまっただろうか。私たちは、成長や成功を数量で評価することに一喜一憂していなかっただろうか。自立や成長を喜ぶ様々な視点や観点を持ち得ていただろうか。教えることに熱心であったが、聴くことに誠実であっただろうか。私たちの協力伝道は、教会が伝道や教会形成のために、ほんとうに協力し相互に工夫する機会をもち得てきただろうか。私たちは各個教会主義と相互無関

心・不干涉主義とをはき違えてこなかっただろうか。私たちは協力伝道に真に期待し、期待し決議したことに対してほんとうに誠実であつただろうか。

私たちは、近代日本が天皇制を頂点にして作り出した民衆統合の体制や、天皇・皇室への近親度から生まれる優劣の意識や差別のことを、きちんと批判できただろうか。私たちは、「女性差別」にはっきりとあらわれてきた性役割の固定や、パワーを使った物事の進め方からほんとうに自由だつただろうか。神の正義、平和と人権を大切に掲げながら、自らの在り方、教会の姿の中に横たわっている非民主的な姿や差別に対しては鈍感だつたのではないだろうか。外国籍住民や移民・難民をもてなし、彼ら彼女らの居場所となれただろうか。

### 3. これから私たちが立つべきところ

いま、少なからぬ教会・伝道所が「教勢」や「財政」の困難をおぼえ、不安を抱いている。しかし、だからこそ私たちは、いまこのとき、主のからだの教会として、真の牧者であるイエス・キリストの言葉から離れずにありたい。神の正義と慈しみを知り、まなざしをまっすぐに、神を見上げ、バプテストになっていきたい。

私たちは、この時代にあつてこそ、聖書から聴き取るべき人間の命への祝福と愛を、同時代を生きる人々とわかちあつていきたい。とりわけ暴力的な歴史と社会の現実に痛んでいる人々に繋がっていきたい。それゆえ、「教えること」「導くこと」としてではなく、「寄り添い」「わかちあう」こととして福音伝道に与ろう。主が先だつて働いておられるこの世に出かけて行き、そこに響く声を聴こう。平和と和解に仕えている働きに学ぼう。「生きづらさ」を抱える人々を迎え、高齢者たちが生き活きと存在し、若者たちが感受性豊かな時代を精一杯生きることが出来る教会となつていこう。そのためにも対話する姿勢、寄り添い方、協力する間柄を共に学び、培つていこう。教会相互の交わりや助けを求め合つていこう。

預言者としての役割を、勇気をもって果たそう。特に、憲法改悪が画策され、天皇代替わりがおこなわれていくこの時代にあつて、非暴力による平和と、思想・信教・信条の自由のかけがえの無さを強く証しする「バプテスト」としての私たちで在ろう。

それぞれが加盟し、共に日本バプテスト連盟を形成している諸教会とその伝道所の命を祝福しあおう。喜びをわかちあい、苦闘を受けとめ、祈りでこれからも繋がりを続けよう。

私たち日本バプテスト連盟は「協力伝道体」である。共同の働きと奉仕、協力のネットワークを活かして、伝道の業、とりわけ和解の務めに仕えていく。主が、私たちの協力伝道を祝福してくださるように。アーメン

「目をまっすぐ前に注げ。あなたに対しているものに、まなざしを正しく向けよ。

どう足を進めるかをよく計るなら、あなたの道は常に確かなものとなろう。」

箴言 4章 25-26節

2018年11月16日

第64回日本バプテスト連盟定期総会